



【韓国】 総合指数は 1.8%高と反発、今週は最高値に期待も利益確定売りが重しか

先週の動き／今週の展望

総合指数は週間で 1.8%高と反発。新型コロナの世界的な感染拡大に歯止めがかからない中、贈賄罪などに問われたサムスングループのトップ、李在鎔被告に実刑判決が言い渡されたことで地合いが悪化。個人投資家を中心に韓国政府による圧力が嫌気され、週明け 18 日は 2%超下落した。ただ、その後は総じて堅調に推移。米国でバイデン新政権が発足し、追加経済対策への期待が高まったほか、好調な中国の経済指標や韓国の貿易統計などを好感し、21 日には今月 8 日に付けた高値を上抜き、史上最高値を再び更新した。米アップルの電気自動車、「アップルカー」を製造すると報じられ、20 日に起亜自動車が大きく買われた。世界的な金融緩和の流れを受けて史上最高値更新に期待がかかるが、利益確定売りが重しとなるか。

▼指数チャート



【ロシア】 RTS 指数は 3.8%安と 4 週ぶり反落、今週は反政府運動が焦点か

先週の動き／今週の展望

RTS 株価指数は週間で 3.8%安と大幅に 4 週ぶりに反落。前週までの 3 週続伸で高値警戒感が強まる中、反体制派指導者ナワリヌイ氏の逮捕を受けた反政府活動の活発化と欧米による対ロシア制裁への警戒で週後半に利益確定売りが強まった。指数は週明け 18 日がほぼ横ばいで、19-20 日はもみ合い。21 日には 4 営業日ぶりに一時 1500 ドル台を上回ったが、その後に反落し 1.6%安で終了。22 日はエネルギー株の下落や対ドルでのルーブル安で指数は 3.1%安と大幅に続落した。個別では、エネルギーのルスネフチが 7.9%、タトネフチが 5.3%、ガスプロムが 4.9%、ロスネフチが 3.5%下落。金融の VTB 銀行が 5.5%、ズベルバンク・オブ・ロシアが 3.1%下げた。今週は反政府運動と当局の対応、欧米各国の反応が焦点か。

▼指数チャート



【ベトナム】 ベトナム指数は 2.3%安と 12 週ぶり反落、今週は最高値をうかがう展開か

開か

先週の動き／今週の展望

VN 指数は週間で 2.3%安と 12 週ぶりに反落。前週までの 11 週続伸で高値警戒感が強まり、利益確定売りに押された。週明け 18 日は指数が一時 1200 ポイントを超え、2018 年 4 月以来の戻り高値を更新したが、翌 19 日は 5.1%安と急落。過去最高値の 1211 ポイントに迫ったことで高値警戒感が強まり、主力株が売られた。指数は 20 日に一時 1098.05 ポイントまで下落し、昨年 12 月 31 日以来の安値水準となったが、その後は押し目買いが強まり、22 日の終値では 1166.78 ポイントまで下げ幅を縮めた。個別では金融のベトナム投資開発銀行が 7.4%、パオ・バト・ホールディングスが 6.8%、HD バンクが 6.5%、エネルギーのペトロベトナム・ガスが 5.5%下落した。今週は経済成長見通しを背景に再び最高値をうかがうか。

▼指数チャート



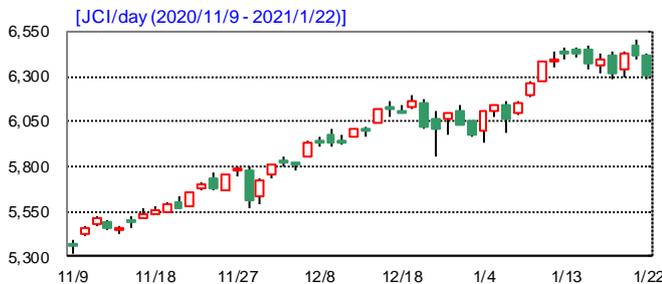


【インドネシア】

【先週の動き／今週の展望】ジャカルタ総合指数は 1.0%安、新型コロナウイルス感染者数の高止まりを嫌気

ジャカルタ総合指数は週間で 1.0%安と 3 週ぶりに反落。週末の下落が痛手だった。週初の 18 日は、3 営業日ぶりに小幅反発したものの、19 日は前日比 1.1%安と反落。一方、20 日は中央銀行の金融政策決定会合を翌日に控え、金融株が指数上昇をけん引し、前日比 1.7%高と反発した。21 日は場中に一時、6500 ポイント台に乗せたものの終値では小幅に反落。政策金利は市場の予想通り過去最低水準の 3.75%に据え置かれた。22 日は新型コロナウイルスの感染者数が高止まりしていることが売り材料視され、前日比 1.7%安と反落して引けている。今週は国内の重要イベントが少なく、外部要因に左右される展開か。

▼指数チャート



【シンガポール】

【先週の動き／今週の展望】ストレーツタイムズ指数は 0.4%安、今週は終値で 3000 ポイント回復に期待

ストレーツタイムズ指数は週間で 0.4%安と 4 週ぶりに反落。3000 ポイントを挟んでもみ合った。週初の 18 日は、20 年 12 月の非石油地場輸出が前年同月比 6.8%増と市場予想を上回ったものの、新型コロナウイルスの感染拡大でシンガポール航空株などが売られ、指数は 4 営業日ぶりに反落。その後はバイデン米新政権の発足に伴う世界的な株高に連動して買い優勢の展開が続き、21 日には終値で 4 日ぶりに 3000 ポイントを回復した。ただ、22 日はこの水準を割り込んで引けている。今週は 25 日の 20 年 12 月の CPI に続き、26 日には同月の鉱工業生産が発表される予定。内容次第で株式相場の支援材料になるか。

▼指数チャート



【タイ】

【先週の動き／今週の展望】SET 指数は 1.4%安、今週は 20 年 12 月の鉱工業生産が焦点

SET 指数は週間で 1.4%安と続落。軟調な値動きが続き、週末には終値で節目の 1500 ポイントを割り込んだ。週初の 18 日は、前後後半から下げ止まらず 3 営業日続落。19 日は反動で買い戻されたが、その後は売り優勢の展開が続き、22 日は財務相が今年の経済成長率について、これまでの予想を下回る可能性を示唆したことが嫌気され、前日比 1.0%安と 3 日続落して取引を終えた。22 日に発表された 20 年 12 月の輸出入額（通関ベース）はともに市場予想から上振れしたものの買い材料にならなかった。今週は 27 日に 20 年 12 月の鉱工業生産が発表される予定で、前月に続き前年同月の水準を上回るかが焦点。

▼指数チャート



【マレーシア】

【先週の動き／今週の展望】クアラルンプール総合指数は 1.9%安、今週は 29 日に 20 年 12 月の貿易統計発表

クアラルンプール総合指数は週間で 1.9%安と続落。週後半に終値で 1600 ポイントを割り込んだ。週前半は中央銀行の金融政策決定会合を 20 日に控えた様子見て売り優勢の展開。20 日は政策金利が 1.75%に据え置かれ、利ざやの縮小が懸念されていた金融株の一角が買われたものの、指数は小幅に下落した。21 日は新型コロナウイルス対策として、活動制限の対象地域が翌日から拡大されることが売り材料となり、終値で約 2 週間ぶりの安値を更新。ただ、22 日は 7 営業日ぶりに小幅反発して取引を終えている。今週は 29 日に 20 年 12 月の貿易統計が発表される予定。28 日はタイプーサムの祝日で休場となる。

▼指数チャート



本レポートは、株式会社 DZH フィナンシャルリサーチ（以下、「DZH」と称します）により作成されたものです。

本レポートは、DZH が信頼できると判断した各種データ、公開情報に基づいて作成しておりますが、DZH はその正確性、完全性を保証するものではありません。

ここに示したすべての内容は、DZH で入手しえた資料に基づく現時点での判断を示しているに過ぎません。

DZH は、本レポート中の情報を合理的な範囲で更新するようにはしておりますが、法令上の理由などにより、これができない場合があります。

本レポートは、お客様への情報提供のみを目的としたものであり、特定の金融商品の売買あるいは特定の金融商品取引の勧誘を目的としたものではありません。

また、本レポートによる情報提供は、投資等に関するアドバイスを含んでおりません。

本レポートにおいて言及されている投資やサービスは、個々のお客様の特定の投資目的、財務状況、もしくは要望を考慮したものではありませんので、個々のお客様に適切なものであるとは限りません。

本レポートで直接あるいは間接に取り上げられている金融商品は、株価の変動や、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化、金利・為替の変動などにより投資元本を割り込むリスクがありますが、DZH は一切その責任を負いません。

DZH は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。

DZH およびグループ会社は、本レポートの論旨と一致しないレポートを発行している場合があり、また今後そのようなレポートを発行する場合があります。

DZH、グループ会社およびその役職員は、本レポートに記載された金融商品について、ポジションを保有している場合があります。

本レポートでインターネットのアドレス等を記載している場合がありますが、DZH 自身のアドレスが記載されている場合を除き、ウェブサイト等の内容について DZH は一切責任を負いません。

本レポートの利用に際しては、お客様ご自身でリスク等についてご判断くださいますようお願い申し上げます。